

第23回土岐市子ども・子育て会議 会議録

日時 令和4年8月30日（木）

午後1時30分～

会場 市役所 3階 大会議室

【出席者】 山田 利彦 神戸ゆかり 中嶋志保 福富 泰岳
加藤 隆浩 小栗 潔子 鷺見 政人 古宮山 綾乃 長谷川広和
藤田 佳代 古川 直利 近崎 奈保子 松崎 多恵子

【欠席者】 酒向 麗羅

（敬称略）

（事務局）

ただいまより第23回土岐市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。

配布資料確認

1 健康福祉部長あいさつ

本日は、委員の皆様方には大変お忙しい中、子ども子育て会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また日頃から本市の子育て支援施策について、ご協力をいただいておりますこと重ねて御礼申し上げます。本日の会議でございますが、次第にありますように、地域型小規模保育施設を2施設、新たに新設するというご協議いただくこととしております。地域型小規模保育施設につきましては、3歳未満児を対象に地域のニーズに合わせた保育環境を整備するというものでございます。保護者の方々の預け先の選択の幅が広がり、今後の保育の受け皿として大きな役割を担っていただけるものとして期待しているところでございます。本日は、委員の皆様方におかれましては、それぞれのお立場からご意見を賜りながら、今後の子育て支援施策の充実につなげて参りたいと存じておりますのでどうぞ忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。開会のごあいさつとさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

2 会長あいさつ

今日は、地域型小規模保育事業所の新設ということで、ご説明をいただきご意見をいただきたいということです。その後、子ども子育て支援事業計画の量の見込みと確保の内容について承認いただくというものでございます。それから、いつも私の方からお願いしておりますように、今日扱う議題だけでなく、それぞれのお立場から、せっかくですので皆さんにPRしたいこととかお伝えしたいことをお1人ひとずつお話しさせていただきたいと思っておりますのでそのことも心に留めておいていただけるとありがたいと思います。

3 地域型小規模保育事業所の新設について

(山田会長)

それでは議題3 地域型小規模保育事業所の新設について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

地域型小規模保育事業所の新設について令和5年4月から開始したいとの2事業所から申し出があった。

今回は小規模A型の新設について申請があった。

まず、一つ目の事業所は、社会福祉法人花園福祉会 代表者：河村一正様

「花園保育園おひさま」の概要について資料1により説明。

加藤委員（花園保育園副園長）より補足説明。

(山田会長)

このことについて、「土岐市家庭的保育事業等の認可等に関する規則」第4条に基づき、子ども・子育て会議において意見を聴取することとなっています。皆様からのご意見やご質問等があればお願いします。

(福富委員)

来年度4月からということだが、もう保育士さんの確保は出来ているのですか。

(加藤副園長)

確保しています。

(古川委員)

施設整備について、新規で建てられるものなのか。今ある施設を改造して使われるものか。

また、周辺環境はどのような状況ですか。

(加藤副園長)

施設自体は今ある建物で、昭和60年代に建てられた建物ですので改修工事を進める段取りをしています。元々、2世帯の住宅なので広く良い環境の建物です。

周辺環境は、目の前に公園があり、施設から出て数歩で公園に行ける恵まれた環境です。

(山田会長)

子育て支援のニーズと制度とのズレ、スキマが出来る。募集の周知についてはどうでしょう。

(加藤副園長)

9月から市から来年度の申込みに入れていただけると思っています。それを見ていただき保護者全般にチラシを配布することと、9月発刊の「らせる」に掲載させていただく予定です。

(山田会長)

「ときめつく」に相談があったりすると思うが、連携はどのようにするのですか。

(事務局)

「ときめつく」は多機能型ということで、ただの遊び場ではなく「利用者支援事業」という各関係機関につなぐ相談事業を主に行います。その中で保護者さんからご相談があった場

合には子育て支援課を通して、また直接、保育園にもお話をして行くように連携を取って行きたいと考えております。

(山田会長)

市の財政的な支援はどうか。

(事務局)

地域型小規模保育所事業であり、既存施設の改修であることから補助金制度があり、国県市の補助を活用し事業を開始したいと相談いただいております。

令和5年度から開始の地域型ということで、国の公定価格に応じて、園に対する給付費を市の方から出ささせていただく予定です。

(福富委員)

土地、建物については花園福社会で所有しているものですか。

(加藤副園長)

園長の所有の物件をお借りするものです。

(福富委員)

土地を民間に借りている保育園の事例があり、地主が返して欲しいと言った時にどうなるかと問題になったことがあるため、その辺りはどうか。

(加藤副園長)

通常であれば、地上権の設定をして、地主の意向に合わせて「返せ」とならないようにするのが一般的だと思いますが、もしそれが必要であれば、地上権の設定を行い、社会福祉法人が主体で土地も建物も所有して継続できるという手続を進めたいと考えています。

(小栗委員)

同じ小規模保育事業者ですが、午前7時から延長保育をしていて、7時から預けたいという希望者もいるので、早くから預けられる保育所が増えるのはいいことだと思っています。

(事務局)

二つ目の事業所はさくらいろ保育園 代表者：浜田真理子さん

「さくらいろ保育園」の概要について資料1により説明。

代表者浜田氏より補足説明。

(山田会長)

このことについて、「土岐市家庭的保育事業等の認可等に関する規則」第4条に基づき、子ども・子育て会議において意見を聴取することとなっています。皆様からのご意見やご質問等があればお願いします。

(福富委員)

ドリーム陶都の施設の中でやるのですか。

(浜田氏)

敷地内の施設で行います。

(福富委員)

保育士等の職員は採用しておられますか。

(浜田氏)

現在7名は採用済です。

(松崎委員)

保育園をやられることは子ども達にとって大変ありがたいことだと思っています。
一時保育については、臨時に保育士を雇うのですか。

(浜田氏)

19人定員の中で余裕型一時保育を行う予定であり、空いているところで一時保育を行う予定です。

(山田会長)

募集の周知についてはどうですか。

(浜田氏)

できる限りいろいろなところに自分たちから声を掛けて回ろうと思っています。

(事務局)

9月から令和5年度の入園受付を開始し、配布資料の中に施設一覧があり、その中に入れていただいています。地域型小規模保育所を希望する方には直接園の方に願書を提出していただいたり、願書を取りに行ってください旨をご案内させていただきます。

(山田会長)

「ときめつく」に相談があったりすると思うが、連携はどのようにする予定ですか。

(事務局)

「ときめつく」の利用者支援事業のなかで、保護者さんから「小さい子も保育園に入れるか」といったご相談があった場合には、紹介していただいたりといった連携を取って行きたいと考えております。

(山田会長)

市の財政的な支援はどうですか。

(事務局)

先ほどと同じように施設を借り上げて事業を実施されるため、施設改修の補助金の対象となります。内装改修や必要な補修はすべてではないが補助対象となります。

(小栗委員)

同じ小規模保育所B型を実施していて、定員は12名です。小さいところで、園児は自分のお家のような雰囲気です。

未満児にはそういった家庭的なところは向いていると思っています。

(山田会長)

資料2 3号認定(0歳児から1・2歳児)の小規模保育施設の確保の人数の変更について事務局から説明願います。

(事務局)

今回、2園開園するということで0歳児、1歳児、2歳児の定員が増となるため、今回変更させていただくこととなります。資料2により説明。

(山田会長)

子ども・子育て会議において承認することとなっております。承認の場合は拍手をお願いします。

～全員 拍手～

4 その他

(山田会長)

その他のことについて委員から特に何かありますか。なければ、皆さまの立場からこの場で話しておきたいこと等を順にお願いします。

(神戸委員)

今日参加して、おひさまやさくらいろといった未満児の保育園が出来ることで、小さい子供を預けて働きやすい環境を整えてあげることが出来ることはいいことだと思いました。

さくらいろ保育園は、オーガニック食材を使った給食の提供や一時保育を行うことも良いと思いました。

(中嶋委員)

ずいぶん前になるが、自分の子を預ける時に預けられないことがありました。

一時保育の事とかそういった情報を「ときめつく」等でも紹介するなど、「こういうところがあるよ」とかの相談が出来ると良いです。保護者が、保育園が遠くて体がえらくても預けられない方がいらっしゃる。そういう方が安心して預けられる場所を聞いて仕事にも安心して行けるような環境が整っていくなかで、0歳児や1歳児の保育所が出来た話を聞いてうれしく思いました。

(福富委員)

来年度から小規模保育所が2園できるということで、お母さんが子どもを預けて働けるという環境が整う。結婚して若いご夫婦は2人が働かないと生活できないという方が大勢みえます。

少子化の時代となり、子どもの数も増えない。非正規の仕事で結婚したくても結婚できない。

出産して子どもを増やしていけないという家庭も増えてきた。岐阜県下でも土岐市でも出生数が増えていない。少子化に歯止めがかからない。

兵庫県明石市の事がテレビで取り上げられていましたが、そこだけ人口がとても増えている。

なぜそんなに増えているのかと問題を洗っていたら、市長はじめ行政が「子ども・子育て、これが大事だ」と。子ども1人につき、おむつ代、ミルク代無償化、保育園無償化等、子育てに係る負担軽減をしています。市長始め、行政、皆さんが子どもに目を向けることが大事だと思えます。

保育の現場も人材不足。若い人材が採用できません。

(加藤委員)

他市へ流れていく保育士さんが多いと聞いています。土岐市内で来て下さる保育士さんが増えるといいと思います。

我々がこれから小規模保育所を開園しますが、先ほどの話で朝7時からやります。保護者さんの生活リズムに合わせた預けが出来るといいと思います。

(小栗委員)

小規模保育所と認可外保育所をやっていますが、小さい空間でおうちのなかにいるような感覚で保育士と過ごしているので園児はとても落ち着いています。

今、保育園が統合されて大人数の施設になっていっていますが、なかには小さい保育所があるのもいいことだと思います。そういったことで、小規模保育所とかいろんな選択肢があるのが良い。

(鷺見委員) 社会福祉協議会の主担当として貸付相談業務を行っています。令和2年度から新型コロナウイルス感染症や働き方改革の関係もあるが、生活費が足りないから働くために子どもを預けたい、でも預けられないからお金を借りられませんか、と言った相談も多くあります。コロナの影響でお父さんの収入が下がってしまい、お母さんが子どもが0歳、1歳と小さくても働かなければいけない、でも預けられないといった悪循環から、こういった新しく小規模保育所が出来るということはとてもいいと思います。

こういった施設ができることで、そういった相談が少しでも減るといいと思います。

(松崎委員)

少子化の中でこういった保育所が増えるということはお母さん達にとっても子どもさんたちにとってもとてもありがたいことだと思います。

防災士をやっており、土岐津防災士会に所属していますが、市の幼稚園・保育園で新しく建てられたところは耐震や防災に対しての備えがしてあると思うが、古い建物もあるのでそういった所で防災に対して防災士としてアドバイスが出来るといいと思います。そういった要望があればぜひ声を掛けていただきたい。

(近崎委員)

地域型小規模保育所の開設を目指している園の方々の志が高いことに本当に頭が下がります。

朝7時から夜7時まで0歳児を見る保育士さんは大変だと思うが、働くお母さんにとって心強いことだと思います。

「ときめっく」の内容についてくわしく聞きたい。イオンの中にあって市内だけでなくいろいろなところから親子が来ると思いますが、市外の方でも自由に利用でき相談が出来るものですか。

また、相談は予約制ですか。何歳ぐらいまでの子どもさんを対象としていますか。

図書コーナーの内容は。

(事務局)

「ときめっく」については、遊びのひろばの機能と相談の機能、ファミリー・サポート・センター事業を多機能型として多治見市のNPO法人ママズカフェさんに指定管理委託をして運営していただきます。市内にとどまらず他市他県からいらっしゃると思いますが、利用は可能です。

ただ、そこで買い物のために子どもさんを置いて、というような託児はできません。

その遊び場の中で、日々のちょっとした育児の相談から育児疲れなどの深刻な相談までお受けします。他市の方からの相談があった場合は、市からはもちろんのこと、NPO法人のつながりでも情報をつなぎ、関係機関で連携しながら支援をしていく予定です。

子育て支援拠点としてはおおむね3歳までのお子さんが対象ですが、それ以上のお子さんの入場を禁止するまではしません。ファミサポ事業の対象者は小学生までです。

図書コーナーは読書ができるスペースに本をたくさん設置し、子どもさんやママパパ、祖父母の読書や読み聞かせ等の利用を予定しております。乳児のスペースもあり、月齢期の赤ちゃんも安心してご利用いただけるものです。

イオンモール土岐2階の子どもの広場から奥に入ったところにあります。委員の皆様方に選んでいただいた「ときめっく」という愛称も良い響きだと言われています。開業後にも是非お立ち寄りいただき、宣伝していただきたくお願い申し上げます。

(藤田委員)

園の利用に関して、小さいお子さんが利用したいとお問い合わせをいただいても定員がいっぱいでお断りせざるを得ない状態です。そういったことを考えると子育て中の方にとって子育てしやすいまちなのかな？と思うところもあります。

保護者さんのニーズに合わせて利用時間とか一時預かり等、選択肢の幅が広がることで市として働くお母さんにとって魅力ある施設がたくさん出来てくると良いと思います。

保育園がお子さんをお預かりするだけでなく、子どもにとって通って楽しいもの、親さんにとっては通わせて良かったなと思ってもらえるようなものになることを考えていきたいです。

(古川委員)

久尻保育園と泉西幼稚園、泉西小学校とで連携していることを紹介します。

5歳児が小学校に入学する時のギャップが、どうしても大きいと以前から話題になっています。

土岐市の中で泉西地区をまずモデルとして今年度から始めますが、小学校入学後1年経った2年生のお子さんの保護者の方々にお子さんが入学して学習面等の困ったこと、心配なことについて調査することを来週から始めようとしています。お子さん自身や保護者のご意見を伺いながら幼稚園・保育園が何が出来るのか、小学校は授業をどのように改善したり教育課程を工夫したりすることが必要なのかということを一ちどやってみて、成果が出れば他の地域にも広げて行けないかという取り組みを行います。「かけはしプロジェクト」と呼んでいます。

また、0歳から2歳までのお子さんを預けて働きたいというニーズが大変増えているというのは感じていると同時に、幼稚園では逆に、せめて子どもが5歳になるまで自分でじっくり子育てしたいというお母さんもいらっしゃる。そういったお母さんは最近の「働け働け」という風潮に自分が悪いお母さんのような気がして、ちょっと残念ですというお声もあります。つまり、大人の生活スタイルが多様化していることを感じていて、両方の親さんの意見を理解してあげる必要があると感じています。

(長谷川委員)

保育士不足の話がありますが、小中学校の教員も非常に不足しています。

育休を取っている教員もおり、育休復帰の際、子どもを預けられる見通しがないと復帰が出来ない。他市ではありますが、まだ保育園の見通しが立たないとの話もあります。

こうやって土岐市での保育園が充実すると先生方も安心して働けると思います。

(小宮山委員)

「ときめっく」にとっても期待しています。相談も良いと思いますが、ただ聞いて欲しい、という方にも対応して欲しいです。身近な場所でない所で自分を知らない人に聞いて欲しい、という人もきっといると思うので対応して欲しいと思います。

さくらいろ保育園はドリーム陶都の敷地内という点も良いと思います。高齢者と園児のふれあいというのは大事で、お互いにとっても良いことだと思うのもっと増えていくと良いです。

子どもを取り巻く環境が、土岐市も少しずつですが良い方向に向かっていると感じています。

(山田会長)

ありがとうございました。良い情報交流が出来たと思います。子育て支援が必要な方たちとのスキマが少しでも埋まるように広報とかホームページ等での情報のさらにそのスキマを委員の皆様も団体やいろんな会議においてもPRとか、こんな事があるのだよ、というふうに拡げたいです。そういうことができる場がこの場にあります。終わったあと、立ち話でもいいので委員の皆さんは、情報交流もぜひ有効に使っていただけると良いと思います。事務局の方々も貴重な意見がたくさん出たのでそれをふまえてどんどん進めて行っていただきたいと思います。

では、事務局お願いします。

(事務局)

次回は令和5年2月頃を予定しており、日にちが近づきましたらご案内いたしますので出席についてよろしく願いいたします。

(山田会長)

ありがとうございました。皆様のご協力により、議事はすべて終了いたしました。

(事務局)

以上をもちまして、第23回子ども子育て会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

15時10分閉会